

## 基礎分野

### ○人間と生活・社会の理解

- ・地域学
- ・思想と宗教
- ・教育学
- ・家族社会学
- ・文学
- ・芸術
- ・ホスピタリティとコミュニケーション
- ・英語コミュニケーション
- ・心理学
- ・人間関係論
- ・運動と健康
- ・法学
- ・哲学
- ・倫理学
- ・看護に活かす経済と経営
- ・ボランティア論

科目区分	基礎分野	教育内容	人間と生活・社会の理解
授業科目	地域学	単位数(時間)	1 単位(15時間)
開講年次	1 年次前期	卒業認定の方針との関連	1 多様な人々の生活・文化を尊重し、人々の相互の関係を確立・発展させるための知識・技術・倫理的態度を身につけることができる。
講師名		実務経験の有無	有・ <input type="checkbox"/>
<p>目的: 地域の自然・地理・歴史・文化・産業などの理解を深め、地域を多角的に捉える基礎的な力を身に付ける。</p> <p>目標: 1 地域の自然・地理・歴史・文化・産業について理解できる。 2 地域の課題を発見し、多面的に考察できる。</p>			
回数	授業計画		授業準備と復習
1	<p>1 茨城県の地域特性</p> <p>1)茨城県の歴史的背景・自然環境・主要な文化</p> <p>2)人口構造・人口動態</p> <p>3)主要産業(農業・工業・観光)</p> <p>2 茨城県総合計画</p> <p>1)策定の経緯・基本方針・概要</p>		<p>準備:</p> <p>1 茨城県の歴史や代表的な文化財、茨城県の産業構造(農業・工業・観光)について調べる</p> <p>2 茨城県 HP を活用し、茨城県総合計画について調べる。</p> <p>復習:授業内容を復習する。</p>
2	<p>3 茨城県の保健医療福祉の現状と課題</p> <p>1)現在の保健医療福祉の現状と課題</p> <p>・茨城県の健康課題</p> <p>・茨城県の保健医療提供体制</p>		<p>準備:茨城県 HP を活用し、第8次保健医療計画について調べ、講師に質問したいことをまとめておく(茨城県の健康課題も含む)。</p> <p>復習:授業内容を復習する。</p>
3	<p>2)第8次医療計画</p> <p>・策定の経緯・基本方針・概要</p>		
4	<p>4 笠間市の地域特性</p> <p>1)笠間市の歴史的背景・自然環境・主要な文化</p> <p>2)人口構成・人口動態</p> <p>3)主要産業(農業・工業・観光)</p> <p>4)住民の暮らしを守り支えるしくみ(制度や資源)</p> <p>・行政制度・医療資源・福祉資源・教育資源・住民組織など</p>		<p>準備:笠間市の HP や「茨城県のわか辞典」から「笠間市暮らしのガイドブック」を活用し、笠間市の地域の特徴や笠間市第2次総合計画についてしらべ、講師に質問したいことをまとめる。</p> <p>復習:授業内容を復習する。</p>
5	<p>5 笠間市の保健医療福祉</p> <p>1)笠間市の保健医療福祉の現状と課題</p> <p>2)笠間市の保健医療福祉の体制</p>		<p>準備:笠間市の HP や「茨城県のわか辞典」から「笠間市高齢者生活サポートブック」「笠間市子育て支援ガイドブック」「第2次笠間市健康づくり計画」をよみ、笠間市の保健医療福祉について調べ、講師に質問したいことをまとめる。</p> <p>復習:授業内容を復習し、基礎看護学実習 I の事前学習に活用する</p>
6	<p>6 地域特性と課題</p>		<p>準備:1~5回までの講義を踏まえ、自身の住んでいる市町村について調べる。</p> <p>復習:グループワークやディスカッションでの学びを踏まえて、課題レポートに取り組む</p>
7 (3h)	<p>テーマ「自分の住んでいる市町村の特性と課題」について調べ、グループで共有する。</p>		
履修要件	履修規程 授業科目の履修等 第4条のとおり		

評価方法	課題レポート、グループワーク参加状況
テキスト	教科書は使用しない。資料がある場合には、配布する。
参考文献	
履修上の 留意事項	
備考	学士力の「項目:知識・理解」「内容:多文化・異文化に対する知識の理解」に該当する科目である。

科目区分	基礎分野	授業科目	思想と宗教
授業科目	思想と宗教	単位数(時間)	1単位(15時間)
開講年次	1年次後期	卒業認定の方針との関連	1 多様な人々の生活・文化を尊重し、人々の相互の関係を確立・発展させるための知識・技術・倫理的態度を身につけることができる。
講師名		実務経験の有無	有 ・ 無
<p>目的: 多様な思想(思考)の背景を理解し、文化や宗教の観点から感性を養う。</p> <p>目標: 1 文化や宗教の観点から思想(思考)を考えることができる。 2 宗教の観点から自利利他を理解できる。</p>			
回数	授業計画		授業準備と復習
1 (3h)	1 思想とは 1)哲学と思想の違い		<p>準備:テキスト及び配布資料を読む。</p> <p>復習:授業内容の復習をする。</p>
2 (3h)	2 日本の文化・思想と宗教		
3 (3h)	3 諸外国の文化・思想と宗教		
4 (3h)	4 生きるとはなにか 死とはなにか		
5 (3h)	5 自利とは		
6 (3h)	6 利他とは		
履修要件	履修規程 授業科目の履修等 第4条のとおり		
評価方法	レポートに加えグループワーク参加状況を加味する場合がある。		
テキスト	教科書は使用しない。資料がある場合には、配布する。		
参考文献	大和出版 困ったら、やめる。迷ったら、離れる。「自分の軸」がある生き方のヒント 飛鳥新社 まずは、あなたのコップを満たしましょう 光文社 死にゆく人の心に寄り添う～医療と宗教の間のケア～		
履修上の留意事項	高等学校の「公共」の教科書の倫理に関する内容を読んで授業に臨む。 積極的な学習姿勢と主体的な学習を望む。		
備考	学士力の「項目:知識・理解」「内容:多文化・異文化に対する知識の理解」に該当する科目である。		

科目区分	基礎分野	教育内容	人間と生活・社会の理解
授業科目	教育学	単位数(時間)	1単位(30時間)
開講年次	2年次前期	卒業認定の方針との関連	1 多様な人々の生活・文化を尊重し、人々の相互の関係を確立・発展させるための知識・技術・倫理的態度を身につけることができる。
講師名		実務経験の有無	有 ・ 無
<p>目的: 看護の対象に応じた効果的な教育に必要な基礎的知識・方法を理解し、教育的役割を遂行する能力を養う。</p> <p>目標: 1 教育の意義と基本的な理論を理解する。 2 教育の方法と評価を理解する。</p>			
回数	授業計画		授業準備と復習
1	1 人間の成長と教育の意義 1) 人間にとっての教育の意義 2) 教育の目的		準備:テキストを読む。  復習:授業内容を復習する。
2	2 教育に必要な基礎理論 (学習理論) 1) プログラム学習 2) 発見学習 3) 完全習得学習 4) 問題解決学習		
3	3 教育方法 1) 発達段階における教育の特徴		準備:テキストを読む。  復習:授業内容を復習する。
4	(1) 乳幼児と教育の特徴		
5	(2) 学童と教育の特徴 (3) 成人と教育の特徴 (4) 高齢者と教育の特徴		
6	2) 教育の場 (1) 家庭教育 (2) 学校教育 (3) 生涯学習と社会教育		
7	3) 教育効果に影響を与える条件 (1) 身体的・精神的状態		準備:テキストを読む。  復習:授業内容を復習する。
8	(2) レディネス (3) 学習意欲と動機づけ (4) 学習環境 (5) 学習者と教育者の人間関係		
9	4) 学習指導 (1) 教育方法の基本原則 (本質) (2) 目的の実現に役立つこと (3) 対象の状態に即すること		
10	(4) 教育者の人格が反映されること (5) 人間関係・物的条件・社会的条件が作用すること		
11	5) 学習指導の原理 (1) 自己活動		準備:テキストを読む。  復習:授業内容を復習する。
12	(2) 直観 (3) 理解 (4) 練習		

13	(5) 個別化 (6) 集団化 6) 集団指導の基礎 (1) 種類・方法	
14 (3h)	7 教育評価 1) 教育評価の機能と目的 2) 教育評価の方法	準備:テキストを読む。 復習:授業内容を復習する。
	試験	
履修要件	履修規程 授業科目の履修等 第4条のとおり	
評価方法	筆記試験、レポートやグループワーク参加状況を加味する場合があります	
テキスト	医学書院 教育学 第8版	
参考文献	必要な資料がある場合は、講師が適宜準備し、配布する。	
履修上の 留意事項		
備考	学士力の「項目:知識・理解」「内容:人類の文化、社会と自然に関する知識の理解」に該当する科目である。	

科目区分	基礎分野	教育内容	人間と生活・社会の理解
授業科目	家族社会学	単位数(時間)	1単位(30時間)
開講年次	2年次後期	卒業認定の方針との関連	1 多様な人々の生活・文化を尊重し、人々の相互の関係を確立・発展させるための知識・技術・倫理的態度を身につけることができる。
講師名		実務経験の有無	有 ・ 無
<p>目的: 社会の変遷に伴う家族の変化を学び、家族の捉え方、あり方について考察する。</p> <p>目標: 1 家族の構造、機能、役割を理解する。  2 社会の変遷に伴う家族の変化を理解する。  3 家族の捉え方、あり方に影響するものを理解する。</p>			
回数	授業計画	授業準備と復習	
1	1 家族の機能とは 性的機能、情愛機能、生殖・養育機能、社会化機能、消費機能、保護機能、休息・娯楽機能、宗教的機能、地位付与的機能	事前課題:「家族とは」について、レポートを提出する。 準備:テキスト・配布資料を読む。 復習:授業内容を復習する。	
2			
3	2 近代家族の特徴 家内領域と公共領域の分離、家族構成員の情緒的関係、子ども中心、性分業(男性は職場労働、女性は家事・育児を担当)、家族集団性の強化、社交の衰退とプライバシーの成立、非親族の排除、核家族化	準備:テキスト・配布資料を読む。 復習:授業内容を復習する。	
4			
5	3 近代家族の歴史	準備:テキスト・配布資料を読む。 復習:授業内容を復習する。	
6			
7	4 家族社会学の研究	準備:テキスト・配布資料を読む。 復習:授業内容を復習する。	
8			
9	5 家族社会学とフェミニズムからの批判	準備:テキスト・配布資料を読む。 復習:授業内容を復習する。	
10			
11	6 家族社会学の今後の問題(グループワーク・発表を含む)	準備:テキスト・配布資料を読む。 グループワーク及び発表の準備を進める。 復習:授業内容を復習する。	
12	1)離婚率の増加問題		
13	2)子どもへの虐待		
14	3)家族のあり方の多様化		
15	4)子ども中心主義(教育やしつけに費やす時間の加) 5)高齢化に伴う介護問題		
履修要件	履修規程 授業科目の履修等 第4条のとおり		
評価方法	レポート課題		
テキスト	※別途、提示する。		
参考文献	医学書院 家族看護学		
履修上の留意事項			
備考	学士力の「項目:知識・理解」「内容:人類の文化、社会と自然に関する知識の理解」に該当する科目である。		

科目区分	基礎分野	教育内容	人間と生活・社会の理解
授業科目	文学	単位数(時間)	1単位(15時間)
開講年次	2年次前期	卒業認定の方針との関連	1 多様な人々の生活・文化を尊重し、人々の相互の関係を確立・発展させるための知識・技術・倫理的態度を身につけることができる。
講師名		実務経験の有無	有 ・ 無
<p>目的: 文学作品を読解し、人間理解を深める。</p> <p>目標: 1 文学作品をとらえて、登場する人物の背景をとらえ、人間の心のありようを理解する。 2 文学作品を読解し、表現力、想像力を深める。</p>			
回数	授業計画		授業準備と復習
1	1 詩		準備: 予告されたテーマの予習や関連する文学作品を読む。
2			復習: 授業内容を復習して改めて感じたことを振り返る。
3	2 短歌、俳句、川柳		準備: 予告されたテーマの予習や関連する文学作品を読む。
4			復習: 授業内容を復習して改めて感じたことを振り返る。
5	3 古典		準備: 予告されたテーマの予習や関連する文学作品を読む。
6			復習: 授業内容を復習して改めて感じたことを振り返る。
7 (3h)	4 絵本		準備: 予告されたテーマの予習や関連する文学作品を読む。 復習: 授業内容を復習して改めて感じたことを振り返る。
履修要件	履修規程 授業科目の履修等 第4条のとおり		
評価方法	レポート、創作活動状況		
テキスト	翰林出版 日本語表現法新訂版 21世紀を生きる社会人のたしなみ		
参考文献	必要な資料がある場合は、講師が適宜準備し、配布する。		
履修上の留意事項	文学作品の鑑賞、創作活動や作品発表は主体的に参加すること。 授業で取り上げた文学作品はもちろん、その他の文学作品にも多く触れること。		
備考	学士力の「項目:知識・理解」「内容:人類の文化・社会と自然に関する知識の理解」に該当する科目である。		

科目区分	基礎分野	教育内容	人間と生活・社会の理解
授業科目	芸術	単位数(時間)	1単位(15時間)
開講年次	4年次	卒業認定の方針との関連	1 多様な人々の生活・文化を尊重し、人々の相互の関係を確立・発展させるための知識・技術・倫理的態度を身につけることができる。
講師名		実務経験の有無	有 ・ 無
<p>目的: 芸術に触れることで、感性及び自己表現力を養う。</p> <p>目標: 1 芸術に触れ、創造することを通して、多様な価値観をもつ対象を理解する感性を培う。 2 創作活動を通して自己の創造性を磨き、表現力を養う。</p>			
回数	授業計画		授業準備と復習
1	<p>1 陶芸・華道・絵手紙・書道(何れかを選択)</p> <p>※関心のある題材で学習することにより、自ら興味を持って取り組み、自己の満足感につながる。故に、選択とする。</p>		<p>準備:担当講師の指示に従う。 復習:感じたこと、表現したことを振り返る。</p>
2			
3			
4			
5			
6			
7			
履修要件	履修規程 授業科目の履修等 第4条のとおり		
評価方法	作品、参加状況、課題レポート等		
テキスト	なし		
参考文献	必要な資料がある場合は、講師が適宜準備し、配布する。		
履修上の留意事項	日頃から芸術や芸術作品に関心を持って臨む。		
備考	学士力の「項目:知識・理解」「内容:人類の文化、社会と自然に関する知識の理解」に該当する科目である。		

科目区分	基礎分野	教育内容	人間と生活・社会の理解
授業科目	ホスピタリティとコミュニケーション	単位数(時間)	1単位(20時間)
開講年次	1年次前期	卒業認定の方針との関連	1 多様な人々の生活・文化を尊重し、人々の相互の関係を確立・発展させるための知識・技術・倫理的態度を身につけることができる。
講師名		実務経験の有無	有 ・ 無
<p>目的: ホスピタリティの意義を理解し、効果的なコミュニケーションを実践できる能力を養う。</p> <p>目標: 1. コミュニケーションの種類や概念、基本原理、構成要素と成立過程、影響する要因を説明できる。  2. 人々との相互の関係を成立させるために必要とされるコミュニケーション技法(言語的・非言語的コミュニケーション)について、コミュニケーションに影響する要因について説明できる。  3. 自己の感情・思考・行動を振り返り言語化できる。</p>			
回数	授業計画	授業準備と復習	
1	<p>科目の概要説明、履修に必要な考え方や演習方法の説明</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自己を見つめる～メタ認知～</li> <li>・実践する～知識と技術と態度の統合～</li> <li>・ロールプレイ</li> <li>・リフレクション</li> </ul> <p>1 ホスピタリティとは</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1)ホスピタリティマインド</li> <li>2)ホスピタリティアクション</li> <li>3)自分のマインドとアクションをチェックする</li> </ol> <p>2 自分を知る</p>	<p>準備:テキストの指定された範囲を読む。  講義の初めに確認テスト1を行う。  マインドとアクションチェック</p> <p>復習:わからない言葉や内容を調べ直す。</p>	
2	<p>3 基本のホスピタリティマナー</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1)ホスピタリティマナー6つの要素の実践</li> </ol> <p>(1)身だしなみ(今日の身だしなみはホスピタリティマナーを満たしているか?)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>(2)挨拶</li> <li>(3)笑顔</li> <li>(4)返事</li> <li>(5)態度</li> <li>(6)言葉遣い</li> </ol>	<p>準備:テキストの指定された範囲を読む。  ・講義の際には、テキストにある「身だしなみ 3つの要素」をふまえた服装で受講する。  ・講義の初めに確認テスト2を行う。  ・6つの要素をふまえロールプレイ、リフレクション・発表・基本マナー共有①</p> <p>復習:気づきのシート①記入・提出する。</p>	
3	<p>2)公共・学習の場でのホスピタリティマナー</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>(1)用件を聞く・伝えるマナー</li> <li>(2)電話を受ける・かけるマナー</li> <li>(3)実習場でのあいさつ、報告のマナー、相談のマナー</li> <li>(4)5W1H SBAR</li> </ol>	<p>準備:テキストの指定された範囲を読む。  ・講義の初めに確認テスト3を行う。  ・以下、G代表がロールプレイ・Gでリフレクション・全体へ発表し、ポイント共有②</p> <p>復習:気づきのシート②記入・提出する。</p>	
4	<p>4 コミュニケーションとホスピタリティ</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1)コミュニケーションとは</li> <li>2)コミュニケーションとホスピタリティの関係</li> </ol> <ol style="list-style-type: none"> <li>(1)聴く</li> <li>(2)はなす</li> <li>(3)受け止める</li> <li>(4)お互いがメッセージの送り手と受け手</li> </ol>	<p>事前:テキストの指定された範囲を読む。  ・講義の初めに確認テスト4を行う。  ・以下、G代表がロールプレイ・Gでリフレクション・全体へ発表し、ポイント共有③</p> <p>復習:気づきのシート④記入・提出する。</p>	
5			
6 (3h)	<p>5 アサーティブコミュニケーション</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1)人間観—相手を受け入れる姿勢—自分の論理</li> <li>2)相手を生かし自分を生かす</li> </ol>	<p>準備:テキスト(資料)の指定された範囲を読む。  ・相手を生かし自分を生かすロールプレイ</p>	

	<p>3)相手を知り、相手を生かす  (1)質問する、たずねる(引き出す)  (2)相手の心情や背景を捉える観察力(読み取る)  (3)受け止めたことを表現する・確認する  (4)自己決定を助ける</p>	<p>・グループで気づきの共有・全体へ発表、ポイント共有<b>④⑤</b></p>
7 (3h)	<p>5 アサーティブコミュニケーション(演習)  4)場面や状況に応じたアサーティブコミュニケーション  5) もう一人の自分による自分の行動の分析と修正  (1)分析・考察の視点</p>	<p>準備:テキスト(資料)の指定された範囲を読む。  復習:自分のコミュニケーションを振り返る。</p>
8 (3h)	<p>5 アサーティブコミュニケーション(発表)  5) もう一人の自分による自分の行動の分析と修正  (2)行動の問題点と修正の視点の共有  5 アサーティブコミュニケーション  6)ホスピタリティとコミュニケーション  (1)6つのセンス  (2)3つの配慮  まとめ</p>	<p>準備:発表できるようにまとめる。資料を配布する。  復習:授業を振り返り、自己の課題を見つける。</p>
	試験	
履修要件	履修規程 授業科目の履修等 第4条のとおり	
評価方法	課題 筆記試験 演習参加態度等 レポート	
テキスト	一般社団法人ホスピタリティ機構 実践!ホスピタリティ基本コース 医歯薬出版株式会社 看護のコミュニケーションセンス	
参考文献	医学書院 基礎看護技術 I メヂカルフレンド社 基礎看護技術 I 医学書院 人間関係論	
履修上の留意事項	指示された事前課題を行って臨むこと。 グループワーク・演習は積極的な姿勢で臨むこと。 提出物は、期日・日時を厳守すること。	
備考		

科目区分	基礎分野	教育内容	人間と生活・社会の理解
授業科目	英語コミュニケーション	単位数(時間)	1単位(15 時間)
開講年次	1 年次前期	卒業認定の方針との関連	1 多様な人々の生活・文化を尊重し、人々の相互の関係を確立・発展させるための知識・技術・倫理的態度を身につけることができる。
講師名		実務経験の有無	有 ・ 無
<p>目的: 英語を用いて、読み、書き、聞き、話す力を養う。</p> <p>目標: 医療・看護の現場における英語でのコミュニケーション方法を習得できる。</p>			
回数	授業計画	授業準備と復習	
1	受付での会話	準備:テキストを読む。 復習:授業内容を復習する。	
2	症状とたずね方	準備:テキストを読む。 復習:授業内容を復習する。	
3	科の名称	準備:テキストを読む。 復習:授業内容を復習する。	
4	薬局での会話	準備:テキストを読む。 復習:授業内容を復習する。	
5	検査での会話	準備:テキストを読む。 復習:授業内容を復習する。	
6	からだの部位の単語	準備:テキストを読む。 復習:授業内容を復習する。	
7	案内の会話	準備:テキストを読む。 復習:授業内容を復習する。	
	試験 まとめ		
履修要件	履修規程 授業科目の履修等 第4条のとおり		
評価方法	筆記試験 (ミニテスト等も評価対象にすることがある)		
テキスト	朝日出版社 看護系学生のための実践英語(改訂版)		
参考文献	必要な資料がある場合は、講師が適宜準備し、配布する。		
履修上の留意事項	高等学校の「英語」の使用テキストを用いた自己学習を望む。		
備考	学士力の「項目:汎用的技能」「内容:コミュニケーション・スキル」に該当する科目である。		

科目区分	基礎分野	教育内容	人間と生活・社会の理解
授業科目	心理学	単位数(時間)	1単位(30時間)
開講年次	1年次前期	卒業認定の方針との関連	1 多様な人々の生活・文化を尊重し、人々の相互の関係を確立・発展させるための知識・技術・倫理的態度を身につけることができる。
講師名		実務経験の有無	有 ・ 無
<p>目的: 人間の心理と行動の基礎知識を理解するとともに、学習者自身の自己理解を深める。</p> <p>目標: 1 心理学の基礎理論を理解できる。 2 人間の心理と行動の仕組みを多面的に理解できる。</p>			
回数	授業計画		授業準備と復習
1	1 心理学の発展 1)心理学の対象と心の見方の歴史		準備:テキストを読む。
2	2 心理学の研究方法 1)心理学の領域 2)人間理解の方法		復習:授業内容を復習する。
3	3 認知からの人間理解 1)感覚		準備:テキストを読む。
4	2)知覚		復習:授業内容を復習する。
5	3)記憶 4)学習		
6	4 行動からの人間理解 1)適応とは		準備:テキストを読む。
7	2)欲求と行動		復習:授業内容を復習する。
8	3)感情と情動		
9	4)動機づけ 5)フラストレーションと葛藤 6)ストレスとコーピング		
10	5 パーソナリティからの人間理解 1)パーソナリティとは		準備:テキストを読む。
11	2)非認知能力		復習:授業内容を復習する。
12	3)知能 4)性格 5)心理検査		
13	6 看護に活かす心理学 1)患者心理 2)心理情報における関係		準備:テキストを読む。
14 (3h)	7 保健医療チームの人間関係 1)医療チームにおけるチームと看護師の役割 2)チームワークとチームエラー 3)チームにおけるコミュニケーションエラー		復習:授業内容を復習する。
	試験		
履修要件	履修規程 授業科目の履修等 第4条のとおり		
評価方法	筆記試験		

テキスト	講談社 医療系のための心理学 ミネルヴァ書房 よくわかる心理学
参考文献	医学書院 看護のための人間発達学 医学書院 系統看護学講座 基礎分野 心理学 必要な文献、資料がある場合には、適宜紹介する。
履修上の 留意事項	看護の対象である「人間」理解につながる学問である。自己・他者の心を科学的に洞察できる能力を育む科目のため、積極的・主体的な学習姿勢を望む。
備考	

科目区分	基礎分野	教育内容	人間と生活・社会の理解
授業科目	人間関係論	単位数(時間)	1単位(30時間)
開講年次	1年次前期	卒業認定の方針との関連	1 多様な人々の生活・文化を尊重し、人々の相互の関係を確立・発展させるための知識・技術・倫理的態度を身につけることができる。
講師名		実務経験の有無	有 ・ 無
<p>目的: 自己理解を深め、対象との援助関係を形成できる基礎的能力を養う。</p> <p>目標: 1 人間関係の基礎知識を理解できる。 2 他者との関係性をとおして、自己洞察を深めることができる。</p>			
回数	授業計画	授業準備と復習	
1	1 人間関係ワークショップ (オリエンテーション含む)	準備:オリエンテーション内容を理解して主体的に参加する。 復習:体験を通して得られた学びを深める。	
2			
3			
4			
5	2 人間関係の中の自己と他者 1) 人間関係論とは 2) 自己認知 3) 対人認知	準備:テキストを読む。 復習:授業内容を復習する。	
6	3 対人関係と役割 1) 対人関係の成立 2) 対人関係の維持と崩壊 3) 対人葛藤と対処 4) 社会的役割	準備:テキストを読む。 復習:授業内容を復習する。	
7	4 態度と対人行動 1) 態度と態度変化 2) 説得的コミュニケーション 3) 攻撃 4) 援助	準備:テキストを読む。 復習:授業内容を復習する。	
8	5 集団と個人 1)集団の特性 2)集団での課題遂行 3)集団での問題解決と意思決定 4)リーダーシップ	準備:テキストを読む。 復習:授業内容を復習する。	
9	6 コミュニケーション 1)コミュニケーションとは 2)対人コミュニケーション 3)マスコミュニケーション 4)ICTの発達とコミュニケーション	準備:テキストを読む。 復習:授業内容を復習する。	
10			
11			
12	7 カウンセリングと心理療法 1)医療現場における臨床心理業務と心理療法 2)看護への応用 3)ソーシャルスキル	準備:テキストを読む。 復習:授業内容を復習する。	
13	8 コーチング 1)コーチングの理論とスキル 2)看護への応用	準備:テキストを読む。 復習:授業内容を復習する。	

14	<p>9 アサーティブコミュニケーション</p> <p>1)アサーションの理論とスキル</p> <p>2)看護への応用</p> <p>10 患者を支える人間関係</p> <p>1)さまざまな看護場面における人間関係</p>	<p>準備:テキストを読む。</p> <p>復習:授業内容を復習する。</p>
15	試験 まとめ	
履修要件	履修規程 授業科目の履修等 第4条のとおり	
評価方法	レポート等	
テキスト	医学書院 人間関係論	
参考文献	必要な資料がある場合は、講師が適宜準備し、配布する。	
履修上の留意事項	人間関係ワークショップでは、他者との関わりをとおして自己をみつめ、他者に与える影響と自己洞察を深める内容とする。	
備考	学士力の「項目:態度・志向性」「内容:チームワーク、リーダーシップ」に該当する科目である。	

科目区分	基礎分野	教育内容	人間と生活・社会の理解
授業科目	運動と健康	単位数(時間)	1単位(15時間)
開講年次	2年次前期	卒業認定の方針との関連	1 多様な人々の生活・文化を尊重し、人々の相互の関係を確立・発展させるための知識・技術・倫理的態度を身につけることができる。
講師名		実務経験の有無	有 ・ 無
<p>目的: 運動を通して身体の成長・発達や健康の促進、社会性、協調性、公正な判断やルールを厳守する態度について学修する。また、実際に自身の身体を活用し、日常生活にスポーツを取り入れた影響や健康増進の手段としての運動について理解を深め、自身の健康の生成方法を探る。</p> <p>目標: 1 運動が心身に及ぼす影響に関する知識が理解できる。  2 運動の基本練習によって、正確な基本技術の習得や集団内での協調性を身につける。  3 健康づくりのための運動・スポーツを実践する。</p>			
回数	授業計画	授業準備と復習	
1	1 運動と健康 1) ガイダンス 2) からだを動かす仕組み 3) 体ほぐし運動、ストレッチング 【実技】	準備:シラバスを通覧し、履修上の注意について確認する。 復習:授業における自身の活動について主観的に評価し振り返る。	
2	2 多様な世代の体力測定 【実技】	準備:「体力」の意味を調べる。 復習:自身の各体力評価の現状を把握する。	
3	3 バレーボール、バドミントン、ストレッチング 【実技】	準備:各競技のルールについて調べる。 復習:授業における自身の活動について主観的に評価し振り返る。	
4	4 運動による生活習慣の予防 運動の健康効果 1) 免疫 2) 脳 3) メンタルヘルス	準備:「生活習慣病」をキーワードに情報収集し、自身の生活習慣について自己分析する 復習:本講義で学んだ知識を活用し、各機能の向上のための運動習慣について説明できるようにする。	
5	5 バレーボール、バドミントン、ストレッチング 【実技】	準備:各競技のルールについて調べる。 復習:授業における自身の活動について主観的に評価し振り返る。	
6	6 スポーツ外傷と応急処置 (スポーツテーピング)【演習含む】 7 高齢者と生涯スポーツ	準備:スポーツ外傷、応急処置について情報収集し概観する。 復習:本講義で学んだ知識を活用し、高齢者における適切な運動習慣について説明できるようにする。	
7	8 バレーボール、バスケットボール、バドミントン、ストレッチング【実技】	準備:各競技のルールについて調べる。 復習:授業における自身の活動について主観的に評価し振り返る。	
	試験 講義内容の総合復習	準備:これまでの講義で学んだ知識について関連性を持たせて整理し、文章で説明できるようにする。 復習:看護師を目指す学生として、自身の健康増進につながる生活習慣を実践できるようにする。	
履修要件	履修規程 授業科目の履修等 第4条のとおり		
評価方法	筆記試験、実技(態度・姿勢)、レポート		

テキスト参考文献	講義資料については、適宜配布する。指定テキストなし。
履修上の 留意事項	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 実技演習には主体的に臨むこと。</li> <li>2 実技の場合、服装は運動種目に適した運動着とシューズ(屋内)を各自用意すること。</li> <li>3 実技後は、自己の体力、技術の到達度及びグループ内の貢献度について主観的に評価し振り返る。</li> </ol>
備考	授業に支障のある既往症がある場合、事前に申し出ること。

科目区分	基礎分野	教育内容	人間と生活・社会の理解
授業科目	法学	単位数(時間)	1単位(15時間)
開講年次	1年次前期	卒業認定の方針との関連	1 多様な人々の生活・文化を尊重し、人々の相互の関係を確立・発展させるための知識・技術・倫理的態度を身につけることができる。
講師名		実務経験の有無	有 ・ 無
<p>目的: 社会生活で必要となる法の基礎的知識を理解できる。</p> <p>目標: 1 法に関する基本的な概念と体系を理解できる。 2 社会生活で関わりの深い法と責任を理解できる。</p>			
回数	授業計画		授業準備と復習
1	1 何のために法律を学ぶか		準備:成年年齢、学則について事前に調べておく。 復習:授業内容と事前の調べとを比較してみる。
2	2 成年年齢と学生の法律関係 3 学校内の法律関係----学則で何が定められるか		
3	4 医療機関の情報管理		準備:インフォームドコンセントについて事前に調べておく。 復習:授業内容と事前の調べとを比較してみる。
4	5 インフォームドコンセント 6 授業資料の適切性		
5	7 合理的配慮		準備:合理的配慮、ハラスメントについて事前に調べておく。 復習:授業内容と事前の調べとを比較してみる。
6	8 いじめとハラスメント		
7 (3h)	9 災害対応 10 医療と紛争		準備:医療過誤、医療 ADR について事前に調べておく。 復習:授業内容と事前の調べとを比較してみる。
履修要件	特になし		
評価方法	各課題ごとに小レポートを提出することで、出席確認に代えるほか、最終レポートで、法律上の問題に対する看護の役割と特徴について自分の意見を述べてもらう		
テキスト	特になし、キーワードをインターネット等で調べ、どのような意味を持つ言葉であるかを調べておくと、授業の内容が分かりやすくなる		
参考文献	必要に応じてその都度指示する。文献や論文のほか、公的機関の発出するレポートや報告書等も、仕事をしていくうえで参考となることが多い		
履修上の留意事項	卒業後の業務に直結する事件事故を中心に、問題解決の方向性を考えていく 人の命に関わることも珍しくないため、他人事として事件を捉えないように注意		

備考	学士力の「項目:態度・志向性」「内容:倫理観」に該当する科目である。
----	------------------------------------

科目区分	基礎分野	教育内容	人間と生活・社会の理解
授業科目	哲学	単位数(時間)	1単位(15時間)
開講年次	1年次前期	卒業認定の方針との関連	1 多様な人々の生活・文化を尊重し、人々の相互の関係を確立・発展させるための知識・技術・倫理的態度を身につけることができる。
講師名		実務経験の有無	有 ・ 無
目的: 物事を多様な側面で考えるための素地となる力を養う。			
目標: 1 自己・他者・生・死について考えを深めることができる。			
回数	授業計画		授業準備と復習
1	1 哲学とは 2 主な哲学のテーマ 1) 存在論 2) 認識論 3) 価値の問題 4) 言語・ことばの問題 3 人間の「生きる」という在り方について		準備:参考文献、配布資料を読む。  復習:授業内容を復習する。
2			
3			
4			
5			
6			
7 (3h)			
履修要件	履修規程 授業科目の履修等 第4条のとおり		
評価方法	レポート・参加状況・態度等		
テキスト	NHK出版 ヨースタイン・ゴルデル著「新装版 ソフィーの世界(上)(下)哲学者からの不思議な手紙」		
参考文献			
履修上の留意事項			
備考	学士力の「項目:態度・志向性」「内容:倫理観」に該当する科目である。		

科目区分	基礎分野	教育内容	人間と生活・社会の理解
授業科目	倫理学	単位数(時間)	1単位(15時間)
開講年次	2年次前期	卒業認定の方針との関連	1 多様な人々の生活・文化を尊重し、人々の相互の関係を確立・発展させるための知識・技術・倫理的態度を身につけることができる。
講師名		実務経験の有無	有 ・ 無
<p>目的: 生命の尊さや人権を学ぶことを通して、自己の倫理観を見つめ、個人倫理、社会倫理、職業倫理を養う。</p> <p>目標: 1 倫理の基礎を理解し、臨床における倫理的問題が理解できる。 2 対象の人権を擁護する必要性を理解し、看護師の責務が理解できる。</p>			
回数	授業計画	授業準備と復習	
1	1 倫理の基礎	<p>準備:配布資料を読む。関連する法律を復習する。</p> <p>復習:授業内容を復習する。 自己の考え、他者の考えを振り返る。</p>	
2	1) 価値の規範		
3	2) 倫理と道徳		
4	3) 倫理と法律		
5	2 臨床の倫理的諸問題		
6	1) インフォームド・コンセントと意思決定		
7	2) 体外受精・出生前診断・人工妊娠中絶		
(3h)	3) 遺伝子操作		
	4) 暴力と拘束		
	3 患者の人権		
	1) 死の選択と医療従事者の責務		
	2) 脳死・臓器移植		
	3) 安楽死・尊厳死		
履修要件	履修規程 授業科目の履修等 第4条のとおり		
評価方法	レポート課題		
テキスト	なし		
参考文献	必要な資料がある場合は、講師が適宜準備し、配布する。		
履修上の留意事項	必要な資料がある場合は、講師が適宜準備し、配布する。 高等学校の「公共」の教科書の倫理に関する内容を読んで授業に臨む。		
備考	学士力の「項目:態度・志向性」「内容:倫理観」に該当する科目である。		

科目区分	基礎分野	教育内容	人間と生活・社会の理解
授業科目	看護に活かす経済と経営	単位数(時間)	1単位(15時間)
開講年次	4年次前期	卒業認定の方針との関連	1 多様な人々の生活・文化を尊重し、人々の相互の関係を確立・発展させるための知識・技術・倫理的態度を身につけることができる。
講師名		実務経験の有無	有 ・ 無
<p>目的: 看護における経済の仕組みを理解する。</p> <p>目標: 1 医療の経済構造と仕組みが理解できる。  2 経営と経営戦略を理解できる。  3 看護師の労働の諸問題とその対応を考えることができる。</p>			
回数	授業計画		授業準備と復習
1	1 サービスと価値 1)「価値」とは何か 2)サービスの特徴 3)看護サービスの特異性		準備:講義資料を読む。事前課題あり。 復習:授業内容を復習する。
2	2 看護師の労働環境と賃金 1)看護師の労働環境の現状 2)看護師の働き方改革		準備:講義資料を読む。事前課題あり。 復習:授業内容を復習する。
3	3)医療従事者の賃金 4)労働衛生		
4	3 日本の医療・介護制度、診療報酬 1)日本の医療・介護制度の仕組みと特徴		準備:講義資料を読む。事前課題あり。 復習:授業内容を復習する。
5	2)診療報酬の仕組み 3)医療・介護提供体制の現状と課題		
6	4 医療経済と経営 1)医療経済・制度の基礎とトレンド		準備:講義資料を読む。事前課題あり。 復習:授業内容を復習する。
7	2)医療経営管理・戦略 3)人材マネジメントと組織開発		
	試験		
履修要件	履修規程 授業科目の履修等 第4条のとおり		
評価方法	講義後のレポート(50%)、筆記試験(50%)		
テキスト	必要なテキストがある場合は、講師が事前に連絡する。		
参考文献	必要な資料がある場合は、講師が適宜準備し、配布する。		
履修上の留意事項	・事前課題は講義前までに必ず記入してくること。 ・固定概念にとらわれないユニークな発想でディスカッションできることを期待します。		
備考	学士力の「項目:態度・志向性」「内容:市民としての社会的責任」に該当する科目である。		

科目区分	基礎分野	授業科目	ボランティア論
授業科目	ボランティア論	単位数(時間)	1単位(30時間)
開講年次	2年次	卒業認定の方針との関連	1 多様な人々の生活・文化を尊重し、人々の相互の関係を確立・発展させるための知識・技術・倫理的態度を身につけることができる。
講師名		実務経験の有無	有 ・ 無
<p>目的: 地域社会におけるボランティアの役割と意義を理解したうえで、ボランティア活動に参加するプロセスを体験することで、社会性・主体性を育成する。 地域のボランティア活動の経験から、ボランティア活動が社会に与える影響や可能性を理解するとともに、地域課題の解決に向けた実践的なアイデアを導き出す力を養う。</p> <p>目標: 1 ボランティア活動の歴史的背景や理論的意義を理解する。 2 主体的にボランティア活動に取り組み、ボランティアを受ける側の考えやニーズを理解する。 3 地域課題を把握し、解決に向けた具体的なアイデアを提案する力を育成する。</p>			
回数	授業計画		授業準備と復習
1	<p>1 ボランティア活動の定義と意義</p> <p>1)授業概要の説明、学習目標の共有</p> <p>2)ボランティア活動の起源と発展の経緯</p> <p>3)地域社会におけるボランティアの役割と意義</p> <p>4)活動の原則</p>		<p>準備:ボランティアに関する基本的な用語を調べる。(ボランティア、社会貢献など)</p> <p>復習:リアクションペーパー提出(授業で学んだボランティア活動の定義と意義を自分の言葉でまとめる。)</p>
2	<p>2 ボランティア活動の歴史と発展</p> <p>1)日本におけるボランティアの歴史と発展</p> <p>2)世界におけるボランティアの歴史と発展</p> <p>3)社会におけるボランティアの影響と意義</p>		<p>準備:マクドナルドが実施している長期入院児童の家族の支援活動を調べる。</p> <p>復習:リアクションペーパー「ボランティア活動の歴史的背景及び社会的意義」について指定用紙にまとめる。</p>
3	<p>3 ボランティアとNPO・NGOの違いと現状</p> <p>1)活動の種類</p> <p>2)NPO・NGO(法的根拠と背景等)</p> <p>3)日本と海外の活動の具体例</p>		<p>準備:①JICAの役割を調べる。 ②クラウドファンディング/子ども食堂について調べる。</p> <p>復習:ボランティアを支える仕組みをまとめる。</p>
4	<p>4 現場からみるボランティア活動の実際</p> <p>※外部講師を呼ぶ</p> <p>1)ボランティア活動の計画・運営方法</p> <p>2)活動の実際 成功例や課題</p> <p>3)学生への期待</p>		<p>準備:外部講師が主催する活動について準備学習</p> <p>復習:リアクションペーパー印象に残った点や気づきをまとめる。</p>
5	<p>5 地域課題の理解とボランティアの事例</p> <p>1)地域社会が抱える課題の具体例</p> <p>2)地域課題の共有(ディスカッション)</p> <p>3)地域社会で行われている実際のボランティア活動の紹介</p> <p>4)看護分野での具体的なボランティア事例</p>		<p>準備:自分の住んでいる市町村の地域課題と代表的なボランティア活動を調べる。</p> <p>復習:グループで話し合った内容を整理し、共通の課題をまとめて、レポートに提出する。</p>
6	<p>6 ボランティア活動の計画立案</p> <p>1)活動計画の目的設定、計画立案の重要性</p> <p>2)グループで地域活動の計画を立案</p> <p>3)活動計画のグループ発表、ディスカッション</p>		<p>準備:成功したボランティア活動の事例を1つ調べ、共有できるよう準備する。</p> <p>復習:ディスカッションで得られた意見を参考に計画を修正する。</p>

7	7 ボランティア活動における倫理と態度 1)ボランティア活動における倫理的配慮 (1)プライバシー保持 (2)利他的行動の重要性 (3)支援者としての配慮 2)看護職としての視点からの考察	準備:ボランティア活動で生じる倫理的な課題について調べておく。 復習:倫理的配慮の重要性について自分の考えを指定の用紙にまとめる。
8	8 地域でのボランティア活動(※) 1)個人又はグループでボランティア活動に参加	準備:ボランティア団体に交渉し、活動参加の申込を行う 復習:参加したボランティア活動内容をまとめる(ボランティア活動報告書)
9	※指定する期間に参加する	
10	※活動ボランティアを選定し、交渉を主体的に行う	
11	2)活動中に地域住民と関係者とコミュニケーションを図る	
12	8 ボランティア活動の振り返りと地域課題解決のアイデア創出 3)活動成果のまとめ 4)活動を通して感じた課題や気づきの共有・意見交換	準備:参加したボランティア活動の記録のポートフォリオ作成。気づいた課題を整理する。 復習:次回授業までに企画を作成し、指導を受ける
13	5)活動して得られた情報と意見交換で出た情報を基本に、地域の課題を整理 6)課題解決に向けた具体的なアイデアをグループ発表で共有 7)アイデアの具現化と企画書の作成	
14	8)企画書をプレゼンテーション 9)フィードバックを受ける	準備:発表に向けた資料の最終確認、プレゼンテーションの練習 復習:フィードバックを基に企画書の改善
15	9 まとめと今後の目標設定 1)学生自身の学びや成長の振り返り 2)今後のボランティア活動や地域貢献に向けた目標設定	準備:講義全体を振り返り、自分が最も成長した点を整理する。 復習:自分の目標を文章化し、レポートにまとめる(最終課題)
履修要件	履修規程 授業科目の履修等 第4条のとおり	
評価方法	ボランティアに参加することを前提とし、主催者のサイン入りの参加証明書を提出すること。また、参加した経験による「ボランティア活動報告書」を提出する。 準備・復習学習の取り組み(30%)、ボランティア活動報告書(30%)、グループ企画書と発表(20%)、最終レポート(20%)	
テキスト	大学図書出版 ボランティア論 市民社会の創造	
参考文献	必要時紹介する	
履修上の留意事項	ボランティア参加は、地域の方々に対し、敬意をもって活動に臨むこと。 グループでの活動時には、メンバー間の協力を大切にすること。 (※) 主催者のサイン入りの参加証明書を提出する。	
備考	日々の生活の中でボランティア的行動を実行してみる。 積極的に、ボランティア活動に参加して、友人と体験を共有し、地域社会の問題点を考えてみる。	